

4 歩行における動作制御の能力の向上

事例—まっすぐに歩けない盲児

1 D男のプロフィール

現在小学部3年生のD男（全盲）は、1年生の4月のある朝、体育館で友だちと遊んでいたが、友だちが教室へ帰ってしまった後もひとり取り残されたまま、体育館の中ほどに座り込み、目をおさえて体を前後に揺すっているだけだった。せめて体育館と校舎をつなぐ渡り廊下までひとりで歩かせようと、D男をステージが右側になるように向け、「この方向にまっすぐ歩くと壁があるから、壁にぶつかったら左に曲って、壁に沿って歩くと10m位で壁がなくなる。そこが渡り廊下の入口だからそこまでひとりで行きなさい」と指示した。D男は歩き出したが、2mも行くと左に左に曲ってしまい、途中でたち止ってしまい、目をおさえて頭を前後にふりだした。もう一度やり直させると、今度は少し左寄りだが何とか壁まで行った。しかしそこで壁に沿って右や左に行ったり来たりしているだけだった。「どっちに曲るの、右、左？」と聞くと「左」と答えるが、いぜん左右にうろろろするだけだった。右、左ということが分からないのかと思い「左手をあげてごらん」と言っても、D男は両手をあげて「左、左」と答えるだけだった。

2 課題の設定

方向概念のない児童や身体の方角性の確立していない児童は「まっすぐに移動する」ということを理解できない。「まっすぐ歩く」ということは、固有感覚器からの情報が正確なボディー・イメージに投影され処理されて、各運動器に伝達され、それがまた固有感覚器を刺激するという体内フィードバック機構が確立し、それが現象として現われるのである。したがってD男がひとりでまっすぐに歩けるようになるには、(1)ボディー・イメージの確立、(2)方向概念の確立、(3)まっすぐ歩くことの習慣化、(4)自由に速く自分の体を

動かすための基礎身体能力の向上の4点について指導しなければならない。
そこでこれをさらに細分化した指導内容を考えた。

(1) ボディー・イメージの確立

① 体の部位の名称

- ア. 体の前面, 後面, 側面
- イ. 頭部 (頭, 顔, 目, 耳, 髪, 首等)
- ウ. 上肢 (腕, 肩, 肘, 手首, 各指等)
- エ. 体幹 (胸, 腹, 背, 尻)
- オ. 下肢 (膝, 腿, 足首, かかと等)

② 体の部分の動作

曲げる, 伸ばす, 振る, さわる, 回す

③ 体全体の動作

- ア. 座る (正座, いすに座る)
- イ. 立つ
- ウ. 寝る (仰臥, 腹臥, 横臥)
- エ. 歩く (前に, 後に, 右に, 左に)

(2) 方向概念の確立

① 自分の身体軸を中心とした方向

- ア. 2方向 (左, 右)
- イ. 4方向 (前, 後, 左, 右)
- ウ. 8方向 (前後左右, 斜め4方向)

② 自分以外の何かを中心とした方向

(3) まっすぐ歩くことの習慣化

① ベルト歩行

② 音源歩行 (継続刺激音, 限定刺激音)

(4) 自由に速く自分の体を動かすための基礎身体能力の向上

① 筋力 (上肢筋, 腹筋, 背筋, 下肢筋)

② 持久力 (筋持久力, 心肺持久力)

③ 敏しょう性

④ 歩行，歩行におけるフォーム

3 指導の経過

はじめに(1)の①②を中心に指導した。自分の体の指示された部位に手を触れさせたり動かさせたり，人形を用いても同じことをさせた。また私の体に触れさせて動作の状態を言わせた。

(2) では右左ということばだけは知っていたので，2方向弁別ブザーと方向指示シートを用いて左，右の概念の定着を図った。次いで4方向，8方向についても音源と指示シートを用いて指導した。時々，4方向の音源に向かって歩かせたり，また右手をあげる。左足を振るなどの動作の指示も加えた。次に向かい合った人形の右手をあげさせるというような鏡映的左右を指導したが，この正しい判別は2年生になってようやく定着した。

(3) のベルト歩行ではゴールにブザーを置いた。初めは平均台を歩くようにふらついたが，4，5回でスムーズに歩くようになったので何回も反復した。継続刺激音（出発前5秒間のみ音を与える）では，初め5m位まっすぐに歩くが，その先は段々と左に偏りが大きくなる傾向がでてきた。そこで太陽熱が頭の一定の場所にあたるように歩かせ，曲ったら向きを修正させるようにした。太陽熱が弱まったため1か月ほどしかできなかったが，12～3m程度はまっすぐ歩けるようになった。

(4) の内容は(1)～(3)と並行して指導してきた。D男は動作が遅く，筋力が弱く，体の動かし方を知らなかったので，音源弁別も兼ねて鈴入りボールを多く用いて，走ることを中心に指導し，また筋力トレーニングなども行った。

4 結果と考察

D男の生活の中で，ひとりで歩くことはまれであり，どこへ行くにも上級生や大人に手を引かれていた。ひとりで歩く経験の機会が多く設定されていたなら，D男はもっと早くからまっすぐ歩けるようになっていたであろう。また初期の頃の指導が狭い場所で，D男にとって受動的すぎたようであり，もっとD男の体を動かす内容を取り入れた方がよかったと反省している。ま

た反応の正誤をD男自身が即時にフィードバックできるような内容であったかどうかも考慮の余地がある。今後のこのような指導のために、改めて指導計画を検討してみたい。

編修協力者氏名 (五十音順)

赤 信 池 夫	東京教育大学附属盲学校教諭
天 川 元 義	愛知県立岡崎盲学校教諭
大川原 潔	東京教育大学助教授
尾 関 育 三	東京教育大学附属盲学校教諭
香 川 邦 生	〃
柏 熊 秀 三	東京都立葛飾盲学校教諭
鴨 下 長 治	東京都立文京盲学校教諭
木 塚 泰 弘	国立特殊教育総合研究所研究室長
鈴 木 栄 助	山形県立山形盲学校 校長
中 野 尚 彦	群馬大学教育学部講師
原 幸 雄	国立特殊教育総合研究所研究室長
本 間 伊三郎	大阪府立盲学校 校長
矢 野 忠	東京教育大学附属盲学校教諭
山 梨 正 雄	国立特殊教育総合研究所研究員
渡 辺 幸 也	東京都立久我山盲学校教諭

事例提供協力者氏名 (五十音順)

浅 野 仁一郎	大阪府立盲学校教諭
安 楽 一 成	東京教育大学附属盲学校教諭
石 倉 信 義	島根県立盲学校教諭
磯 昭 二	北海道帯広盲学校教諭
大 浦 三 男	山形県立山形盲学校教諭
小 川 昌 子	東京都立八王子盲学校教諭
加瀬谷 美 子	宮城県立盲学校教諭
加 藤 孝 雄	愛媛県立松山盲学校教諭

鎌田敏子	宮崎県立盲学校教諭
木下和夫	神戸市立盲学校教諭
小林一弘	東京教育大学附属盲学校教諭
佐々木洋一	国立久里浜養護学校教諭
桜庭四郎	青森県立盲学校教諭
島倉昭雄	東京都立久我山盲学校教諭
下田知江	東京教育大学附属盲学校教諭
白水祥文	兵庫県立淡路盲学校教諭
鈴木重夫	北海道札幌盲学校教諭
滝口俊景	東京都立文京盲学校教諭
竹田昭彦	山形県立山形盲学校教諭
竹屋哲弘	山形県立山形盲学校教諭
谷尻ヒロ	富山県立盲学校教諭
地主竹	山形県立鶴岡盲学校教諭
鳥山由子	愛知県立岡崎盲学校教諭
中尾雅一	佐賀県立盲学校教諭
永井昌彦	京都府立盲学校教諭
則松則博	福岡県立柳河盲学校教諭
前東孝儀	北海道札幌盲学校教諭
松岡敏彦	山口県立盲学校教諭
安岡良典	大阪市立盲学校教諭
矢野芳子	愛知県立豊橋盲学校教諭
山本正	東京都立久我山盲学校教諭
和田美枝子	福井県立盲学校教諭
若菜一	千葉県立千葉盲学校教諭

なお、本書の編集については、初等中等教育局特殊教育課教科調査官瀬尾政雄が担当し、次の者が企画に参加した。

国松治男	初等中等教育局特殊教育課長
中田和夫	初等中等教育局特殊教育課課長補佐
石川周治	初等中等教育局特殊教育課指導係長

図書管理票	
管 理 番 号	第 4541 号
小 類 別	0 4 全 冊(巻)のうち
受 入 年 月 日	62 年 3 月 31 日
供 用 課	北海道立特殊教育センター

養護・訓練指導事例集—視覚障害教育編—

MEJ 3360

昭和50年10月3日 初版発行

昭和58年10月8日 3版発行

著作権所有 文 部 省

〒615 京都市右京区山ノ内大町5-3

発 行 者 株式会社 東 山 書 房

代表者 三 好 義 男

京都市下京区猪熊通梅小路上ル

印 刷 者 株式会社 合 同 印 刷

代表者 青 木 明

〒615 京都市右京区山ノ内大町5-3

発 行 所 株式会社 東 山 書 房

電話 (075) 841-9278 (代)

振替口座・京 都 1067 番

定 価 550 円